

大西さんとは、特任助教として雇って頂いたことが縁で、共著論文 4 本を執筆できた。明るく前向きな大西さんとの共同研究は非常に楽しいものであった。大西さんとのエピソードは幾つも有るが、ここでは 2 つに絞って紹介したい。

(1) COVID19 論文

コロナ下でも大西さんは基研へ来られていて、研究室メンバーと昼食を取られていた。そんなある日、京都大学北部食堂への道中にて。

大西さん「大阪大学グループの提唱した K 値方程式(中野、池田(2020))は解析的に解ける。解を使って直接データ解析が出来る。誤差は気にしなくて良いよね。」

滑川「いや、誤差は重要です。数値計算の専門家としての意見です。」

大西さん「よし、任せた!」

こうして滑川がデータ解析の担当となる。その後、同じく基研の特任助教であった福井さんも加わり COVID19 論文(大西、滑川、福井(2020))を執筆した。なお、この論文に関して “arXiv で reject された (medRxiv へ投稿し PTEP で出版)”、“ノーベル賞受賞者の Michael Levitt 氏とのメールのやり取り”、“オーストラリアの政策担当者とのやり取り”等の通常では得られないであろう経験をした。貴重な体験であった。

(2) 最後の Zoom ミーティング(2023/05/13)

「大西さん、いますか?」

大西さん「いますよー」

「それでは、今日のミーティングですが...」

(中略)

「それでは、次回ミーティングは 5/27 ということで」

大西さん「次回ミーティング日をグーグルカレンダーに入れて」

* ミーティング日程を研究グループ共用のグーグルカレンダーで管理していた。

大西さんが体調を崩されていたことは御本人から伺っていたが、これが大西さんとの最後の会話になるとは想像もしていなかった。この 3 日後の 5/16 に大西さんの訃報を聞いた時は呆然としてしまった。大西さんには最後の最後まで我々の共同研究のために時間を割いて頂き、大変感謝している。

大西さんとの共同研究で得たものは大きく、逆に大西さんへお返しできたことは少なかったように思う。ただ、大西さんならば笑顔で「気にすんな」と言われそうである。大西さんとの思い出を糧に、これからも頑張っていきたい。

滑川 裕介 (広島大学)

写真は2019年のもの。左から、滑川、大野木さん、大西さん。後ろに、大西さんの学生だった大畑さん。

